

公表

## 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		はじめの一步花見事業所		公表日		2025年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	訓練室①②に分けて活動の提供を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	1	国の配置基準を満たしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	見通しを持たせる工夫を行っている。	施設の環境整備は賃貸物件ということもありバリアフリー化は現状難しい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	クッションマットを入れ替え気持ちよく過ごせる環境にした。室内、トイレの清掃、消毒を欠かさず行っている。	全室を同時に使用する場合、別室での話し声や足音などが聞こえない工夫がこれからも必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	静養が必要な場合は別室にて対応が可能		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	毎日の朝礼、日々の療育前の打ち合わせ、後のミーティングを行い目標設定と振り返りを行っている。日報に特記を記し、職員全員への申し送りを行う。定期的な会議も行っている。最終的に終礼で確認しあっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	年1回実施。意見は事業所内部で共有。改善等行う場合は改善策を保護者に周知している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	定期的な職員会議や打ち合わせ会議などで自由に発言できるようにし、改善へと繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		第三者委員会について知らない、把握していない職員が多い。周知を図る。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	研修案内が届いたら職員に周知。必須であったり、希望者が出来る限り受講できるようにしている。法人全体の研修は全員参加で行われる。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		個別の療育で直接保護者とお話をしたり、動画を半期に作成し保護者に支援プログラムを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	保護者面談の際に、必要な情報の聞き取りを行い、実際に子どもの姿を観察した後に作成している。職員は個人ファイルにて確認する。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	担当職員の意見を聞きながら検討している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	会議や記録で周知して支援方法の統一を図っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	共通したアセスメントシートの他にJSI-miniの検査用紙を使い成育歴を含む子どもの状況や間隔調整障がいの可能性を探っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	法改正の元、5領域に対する目標の設定、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携支援を記載。内容の固定化にならぬように心がけている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	1対1の個別療育の担当職員が立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	定着を図るための目的を持った固定化はある。経過を追いながら達成を確認して次につなげていっている。		

バ	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別療育が中心ではあるが、集団移行も踏まえて小集団の療育も行い支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	個別療育中心なので担当職員を中心に支援を行う。必要時は予め計画し役割分担の元療育を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	終礼の中で支援を振り返り、気づきの共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	記録は児の様子、端的でなくその場面が伝わるように具体的に細かく記録を取るよう心がけるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		ガイドラインの確認を行って入るが、地域交流、余暇の提供はしていない
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	禁止や命令的な表現は行わない。自己決定できるような言葉かけ、投げかけ、対応で支援にあたっている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者又は、療育担当者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	相談支援員や管理者・児童発達支援管理責任者が、担当者会議や研修参加時に関係機関と情報を共有し合うようにしている	何かあった時に協力していただける機関はある。但し、全職員がそのことを周知していないため、伝えるようにする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	保護者の方からLINE、電話連絡等で情報を頂いている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	同事業所の発達支援や、法人園にて情報共有を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		該当者がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	現場職員が直接対面することはないが、管理者・児童発達支援管理責任者・相談支援員など役職がある者は研修を受け、そこでの繋がりを通じて連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1		個別療育の中で他機関の児童と活動する機会を設けることは難しいため、機会は設けていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	管理者・児童発達支援管理責任者・相談支援員など役職がある者が積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	保護者へのフィードバックやLINE、電話などのツールを使い、報連相を行うようにしている。またモニタリング時には細かく聴き取りを行うようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	常事業所で研修が開催できない分、何か療育に関することや子供たちの成長に関する研修や講座などが開催される時は周知を行うようにしている。	ペアレントトレーニング等保護者からの希望があれば検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に個々に説明している。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1	本人、保護者の希望を重視し、今のお子様の現状を踏まえ計画、実施している。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	適時面談を行い説明し同意を頂く。多忙でお会いできない場合は、メールやラインでのやり取りの元、計画書を作成。同意をいただいている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	随時、面談や電話等で児童発達管理責任者、担当職員が行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		保護者会等のご要望があれば検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情解決担当者を設置し、速やかに対応できる体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	InstagramやFacebookで情報を発信。また、個別にLINEで情報をお知らせしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人ファイル等の保管は徹底。個人情報に記載されてある不要な用紙はシュレッターで廃棄している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	必要なお子様にはPECSを活用。視覚支援を重視した意思疎通、情報伝達のための配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		個別療育の中では地域との関わりは持っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	事務所内にファイルを設置し、誰でも目を通せるようにしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	定期的に火災、地震、不審者を想定し避難訓練を実施。紙芝居や絵カードを使用し子どもたちが理解し出来るように支援している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	契約時、モニタリング時、イベント時に確認。所定の用紙に記入し提出してもらっている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	医師の指示書を可能な限りもらえるようにしている。 事務所内にアレルギー該当児とアレルギーの種類を掲示し、注意喚起している。	保護者に最新の情報を聞きアップデートしていく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	事務所内にファイルを設置し、誰でも目を通せるようにしている。	周知を徹底する。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	契約時に個々に説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	日報に毎回記載し共有。ヒヤリハットを気づきとしてあげやすい状況を作っている。 管理者会議では各事業所のヒヤリハットも報告し合い現場にも周知をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止研修を法人全体、各事業所にて実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	契約時に保護者に説明を行い、同意書をいただいている。		